

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 奉優会	代表者	香取寛	法人・ 事業所 の特徴	令和3年4月より事業を開設。 当法人の事業所のコンセプト「その人らしい暮らしを大切にするためになじみある生活もゆっくり・一緒に・楽しく」住み慣れた自宅、地域で自分らしく安心して在宅生活を継続できるよう「通い」「訪問」「泊り」を柔軟に支援している。
事業所名	優つくり小規模多機能介護 高輪台	管理者	前田恵里		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	0人	2人	2人	2人	2人	0人	5人	0人	14人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の 確認	①今回のサービス評価で見えた課題について、来年度も職員全員で改善に取り組む。 ②来年度も継続し、毎日のミーティング・毎月の常勤会議・事業所会議を行う。 ③利用者担当制を導入し、担当ご利用者のカンファレンスに現場職員も参加する。	①前年度の課題について、事業所全体として取り組むことができた。 ②毎日のミーティング、毎月の事業所ミーティングを継続して開催することができた。 ③利用者担当制度は導入できなかった。	・前年度の課題について、事業所全体として取り組むことができた。 ・毎日のミーティングでは翌日の予定の確認も組み込むことができた。事業所ミーティングでは意見交換を行っている。	①来年度は、今回の改善計画を全職員にしっかり周知し、目標や改善点が見える形で日々の業務に努める。 ②毎日のミーティングでは、翌日分の通い・訪問・送迎・宿泊スケジュールを出勤職員全員の視点で確認する。
B. 事業所の しつらえ・環境	①コロナの状況を踏まえながら、適切な感染対策を継続する。 ②綺麗な施設環境を維持できるよう、定期的な施設メンテナンスの他、毎日の事業所清掃を実施する。 ③コロナの状況を踏まえながら、外出・外気浴・散歩の機会を増やす。近所の店舗での買い物も取り入れていきたい。	①コロナは5類の扱いとなったが、感染を持ち込まない・拡大させないよう施設として取り組むことができた。 ②施設の定期メンテナンス・点検、日々の清掃を行っている。 ③前年度と比較すると散歩、近隣でのお買い物の機会を持つことができた。	・日頃の手洗いうがい、消毒、清掃をしっかり行っている。 ・いつ来所しても館内が清潔に保たれている。 ・感染症があった際は、事業所を分けたゾーニング対応、各ユニット内完結型の対応を行っている。	①館内の清掃、定期メンテナンスを継続する。 ②日々の散歩の他、外出企画で外に出る機会を作りたい。
C. 事業所と地域のかかわり	①利用者担当制を設ける。 ②利用者担当制を設けた上で職員がご利用者の利用開始から関わりを持ち、アセスメントも行う。 ③担当利用者の利用できる社会資源について、港区にはどのよ	①利用者担当制を設けることができなかった。 ②ご利用者の実態調査や施設内カンファレンスに、管理者・ケアマネジャーだけでなく現場職員も参加する機会を設けた。 ③地域資源について知識を深め	・実態調査、新規受入カンファレンス等、ご利用開始前から現場職員が関わる機会を作ることができた。 ・地域資源について知識を深める機会が少ない。今後は自治体や法人内の研修参加を促していき	①実態調査、新規受入カンファレンス等、ご利用開始前から現場職員が関わっていききたい。 ②地域包括支援センターと連携し、地域資源を含めた地域福祉に関する研修を企画したい。

	うなものがあるか理解を深める。	る機会がなく、今回の評価を経て知識不足であることがわかった。	い。	
D. 地域に出向いて 本人の暮らしを支える取組み	①来年度も優つくり村高輪台としてパンの訪問販売・野菜のマルシェを継続し、地域の方との交流を持つ。 ②地域包括支援センター、居宅介護支援センターと密に情報共有を図る。 ③C・③の通り。	①今年度も優つくり村高輪台として、パンの訪問販売・東京いちばの野菜のマルシェを継続することができた。 ②地域包括支援センター、居宅介護支援センターと密に情報共有を図ることができた。	・ご利用者だけでなく、ご近所の方にもパンの訪問販売や野菜マルシェのご好評をいただいている。施設へ足を運んでいただくきっかけになっている。 ・地域包括支援センター、居宅介護支援センターと空き状況等情報共有することができた。	①来年度も優つくり村高輪台としてパンの訪問販売・野菜のマルシェを継続し、地域の方との交流を持つ。 ②地域包括支援センター、居宅介護支援センターと空き状況等情報共有する。 ③東京産の野菜の収穫体験企画を行い、ご利用者に楽しんでいただきたい。
E. 運営推進会議を活かした取組み	①来年度もコロナの状況を踏まえながら、対面・Webにて2ヶ月に1回運営推進会議を開催継続する。地域の方やご家族よりご意見を頂いたり、心配事のご相談の窓口となるよう努める。	①今年度も現地開催にて運営推進会議を2ヶ月に1回開催継続することができた。会議内では、参加者からご意見を話していただく場を設けている。	・定期的に運営推進会議を開催しており、地域の方やご家族・ご利用者へ参加を促している。 ・参加者へ意見を求める場面もあり、問い合わせにはしっかり回答している。	①来年度も運営推進会議を2ヶ月に1回開催継続する。全ご利用者・ご家族に参加意思の確認をし、会議内では、参加者からご意見を話していただく場を設ける。 ②施設・ご本人・ご家族・地域が気軽に相談ができる関係性を築く。
F. 事業所の 防災・災害対策	①毎月の優つくり防災を確実に行う。また、防災マニュアルを元に定期的な防災訓練を行う。緊急時、近隣住民やご家族様との連携が取れるよう整備する。	①年2回の防災訓練を行うことができた。近隣住民を巻き込んだ訓練ができていない。	・今後は近隣住民にもお声がけの上で防災訓練ができるとよりよいのではないかと。	①防災訓練の中身の見直し、近隣を巻き込んだ内容にしたい。 ②BCP計画の見直しを行う。